

# 「我が国が執るべき外交 政策について」

日本維新の会国会議員団政務調  
査会

2019年4月25日

神奈川大学特別招請教授

下斗米 伸夫

# ポイント

- ▶ 冷戦終焉30年、グローバル政治が再変動
- ▶ パックス時代（英米主導の安保、基軸通貨、工業、言葉ーハードとソフト・パワー）の終わり、
- ▶ 地政学から地経学（海と陸）へ
- ▶ トランプ政権の孤立主義 = 「番長が支配する崩壊クラス？」
- ▶ 世界の多極化（核では米ロ2極、経済では米中2極、安全保障ではインド、宗教・人口の役割）

# 米国ムラー報告とウクライナ大統領選

- 2019年ムラー特別検察官、プーチン政権のトランプとの共謀を認めず。
- 4月21日のウクライナ選挙でポロシェンコ大敗、ゼレンスキー勝利
- これらの変化は2014年のウクライナ政変後の「新冷戦」的な米口悪化を食い止めるか。
- 双方とも米国のクリントンとネオコン派がしかけたNato東方拡大の最終局面
- 本格的な米中口の多極世界への転換なのか

# トランプ = マクロン = ゼレンス キー現象とみるロシアの高級誌

- ▶ 伝統的エリートへの「反システム」派の勝利と評したエクスパート誌
- ▶ ロシア系、東のクリボイログ（ロシア語地域）出身
- ▶ しかし金融グループ（コロモイスキー、親N a t o派、ただしユダヤ系オリガルフ）がTVを支援していた。
- ▶ 誰の立場？ 西か、東か（新冷戦？）



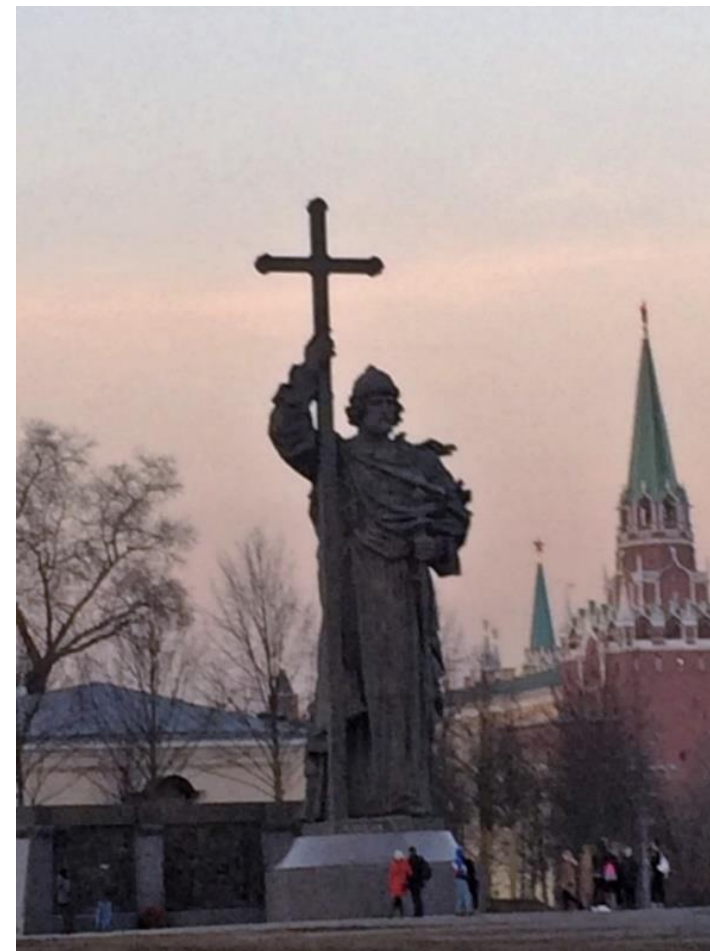
# I ・ 大統領選挙後のプーチン内政

- ▶ ロシアの18年3月18日の大統領選挙
- ▶ プーチン大統領への支持76%、クリミア併合などへの国民的コンセンサス、大都市の一部批判層以外の支持を確保。
- ▶ 東京勤務経験のヴァイノ長官が選挙采配
- ▶ プーチン選挙における、教会勢力と支持者
- ▶ サッカー成功の「祭りの後」、二兆円の支出
- ▶ 年金問題の噴出、

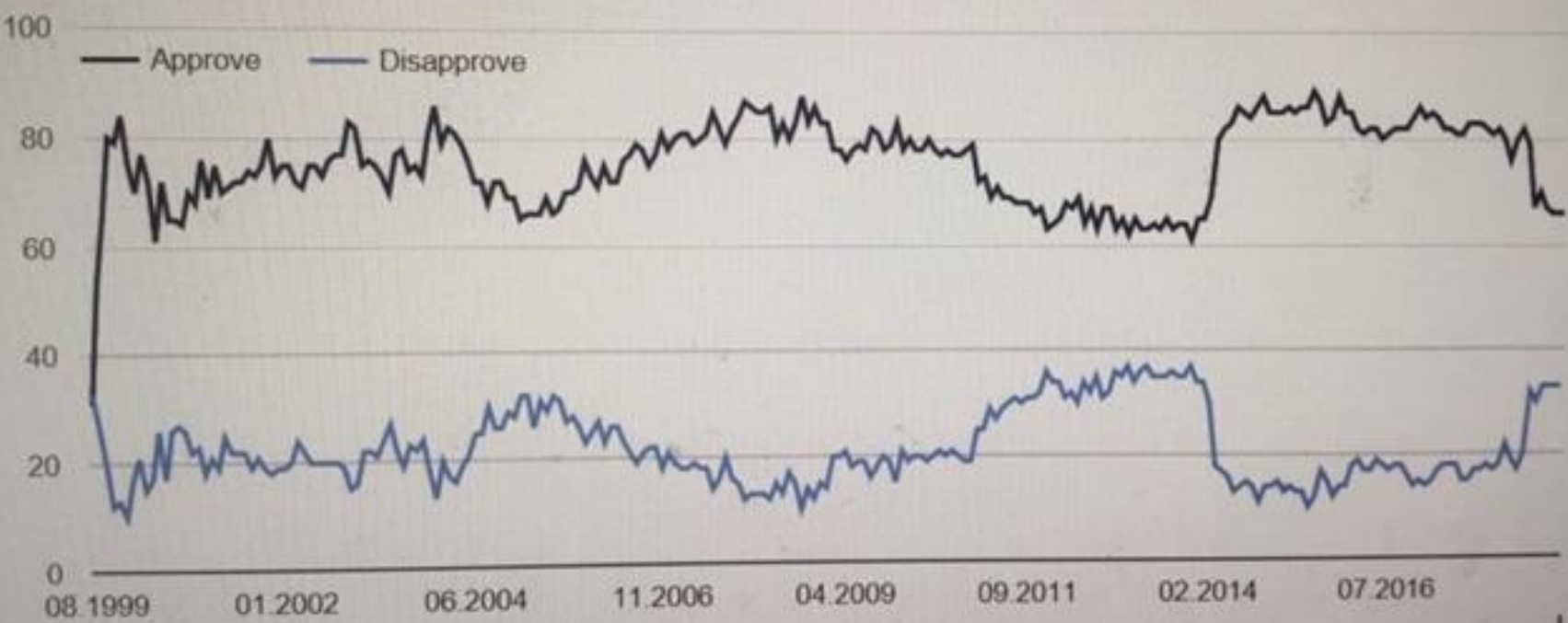


# プーチン=コンセンサスの限界

- 石油ガス超大国エネルギーへの国家統制
- 経済部門ではリベラル（クドリン、メドヴェージェフ）、シロビキ的勢力が安保・外交など、プーチンはバランス
- その間をぬってヴァイノ等若手テクノクラートの台頭
- プーチン政治の基調にある保守主義、正教への回帰や宗教和解など（昨年三月の古儀式派教会との和解）。
- アルコール消費も低下、平均余命なども伸張、
- 他方中産階級の没落、経済停滞の危険



PUTIN'S APPROVAL RATING



Do you approve the activities of V. Putin as the President (Prime Minister) of Russia?

# 地域の抵抗、下がるプーチン人気

- ▶ 年金問題、60才から65才に引き上げで不満
- ▶ 約10-20%低下するプーチン人気（66%）
- ▶ 秋の地方選挙で共産党躍進 = 沿海地方知事選のドロウ、
- ▶ 自称中産階級の減少：60%（14年）から48%へ（18年）
- ▶ 19年春にかけ、アルハンゲリスクのゴミ問題、エカテリンブルグも教会建設反対など地域的抵抗の強化
- ▶ インターネット規制法（4月）で統制強化





# 深刻化するウクライナ問題

- ▶ ウクライナ大統領選挙（三月）、親米ポロシェンコ（25%）の大敗、TVコメディアン＝ゼレンスキー（73%）の圧勝
- ▶ しかしプーチンも慎重
- ▶ ウクライナ正教会をめぐるモスクワと欧米（コンスタンチノープル）
- ▶ 350年ぶりのロシア正教会の分裂
- ▶ ゼレンスキー新大統領でも停滞と危機は持続か



# Ⅱ ロシア外交の変針＝脱欧入亜

- 1996年クリントン大統領のNATO東方拡大が促した東方シフト、内政的理由
- ロシア外交の変針、プリマコフ外相（親米欧からアジア・シフトへ）
- 印中ロの3国の台頭を予測（BRICKS, 上海協力機構）、18年に末中印ロ提携
- 2011年10月にプーチンは『ユーラシア連合』、ウクライナを巻き込む予定
- しかしウクライナの分裂、反ロシアへ
- ロシア正教会も分裂（NATO拡大もある）
- ロシアは北極海を含めアジアへ

# 冷え切った米英との関係

- ▶ パクス・ブリタニカ、ナポレオン戦争後初めて英米が指導しない時代
- ▶ 英連邦の隠れた相棒だったロシア帝国
- ▶ トランプでも改善しなかった米ロ関係（ヘルシンキの挫折）
- ▶ INF条約（1988）の終わり、ロシアも一年前の教書での警告きかず
- ▶ NATO一一月、最大規模の軍事演習
- ▶ 軍備管理軍縮交渉の挫折
- ▶ ロシアは次世代型超音速兵器アヴァンガードなどで対抗
- ▶ ロシア・ゲートの捜査、スクリパリ事件にみる断絶
- ▶ ロシア共謀に関する特別検察官報告の公表、ロシアはいちおう無関係

# 中東で漁夫の利をしめるロシア

- ▶ 米国の「大中东構想」の挫折、パクス・アメリカーナの終わり
- ▶ シェールガス革命、世界最大のエネルギーとなった米国
- ▶ ロシアとサウジアラビアを結び付ける要素（北極2, カシゴギ事件）
- ▶ シリア撤兵をめぐるロシアの台頭
- ▶ イスラエルとも関係が良いロシア（戦勝記念日）
- ▶ イランとイスラエルの仲介を図るロシア？

# プーチンの「脱欧入亜」策

- ▶ プーチン政権は中国との国境画定（2004年10月）以降開発へ
- ▶ 2006年12月安保会議で極東開発戦略決定、「21世紀発展ベクトル」
- ▶ Apec2012年ウラジオストク会議にむけ開発計画（二兆円投資）
- ▶ 東方エネルギー計画（2007年）
- ▶ 北極海航路への傾注（2013年2月大統領外交概念－16年11月新版）
- ▶ 東太平洋石油パイプライン（2007）
- ▶ 「シベリアのカ」（4000キロのガス）
- ▶ 2012年極東開発省創設（大臣はイシャーエフ、ガルシカ、現在はコズロフ）

# 習近平「一帯一路」とロシア

- 「一帯一路」、実ははっきりしない概念
- ロシアと経済ベクトルは一致しない
- 中国は、過剰投資体質、鉄道、港湾などインフラ輸出
- 三つのシルクロード（海と陸、そして氷）
- 貧困国に港湾など投資・融資して回収できなくなる
- ロシアとは実際にはかみ合っていないが、政治的に利用
- 2018年軍事演習など戦略的パートナー強化



# 半島問題—地政学と地経学の交錯

- ▶ 新しいスエズ？—北極海からインドに到る「幹線」
- ▶ 海と陸の地政学は「半島問題」
- ▶ ヤマル・ネネツ半島でのLNG企画、中国・仏合弁の1から日本JOGMECとの北極LNG IIへ
- ▶ カムチャトカ半島での同積み替え港計画
- ▶ 朝鮮半島での「シンガポール宣言」とハノイの挫折



# Ⅲ 日中平和条約交渉

- ▶ 2018年11月14日、シンガポールの安倍・プーチン首脳会談『56年日ソ共同宣言』を基礎に、で日本政府の戦略転換
- ▶ 両者のリーダーシップで仕上げるとの決意
- ▶ 12月ブエノスアイレスで首脳会談、メカニズムの構築
- ▶ 一-二月の小括、中期交渉, 連休明けの結果？
- ▶ 2019年6月G20大阪会議でプーチン大統領の訪日



# 日ソ領土交渉の小史

- ▶ 1945年2月、ヤルタ密約（1年後にCSCAP決定で公表）
- ▶ 同8月、日本はポツダム宣言うけいれ
- ▶ （領土条項は＝連合国が決める諸小島に限定）
- ▶ 1947-91年間に深刻化した冷戦、内戦、そして国際熱戦、
- ▶ 連合国、とくに英米ソの不一致（台湾を認める米、毛沢東政権を認める英ソ）
- ▶ マッカーサーの極東核攻撃計画（26か所）が日本独立を促した（マッカーサー解任4月から9月「サ」条約で多数国和平）
- ▶ 吉田の自己矛盾が4島、2島の起源（1950年9月ガスコイン大使に2島を求める）
- ▶ 1955年4月、鳩山政権と米国政府の問題

# 北方領土と中国・ロシア領土



- ▶ 中国との繋争 = 大ウスリー島 (320平方キ〇) を折半
- ▶ 歯舞群島 (99平方キ〇)
- ▶ 色丹島 (255平方キ〇)
- ▶ 国後島 (1489平方キ〇)
- ▶ 択捉島 (3186平方キ〇)

# 1956年共同宣言と2018年11月合意

- ▶ 11月14日に安倍総理がシンガポールの首脳会談で「56年共同宣言」を基礎に条約交渉加速、二人で仕上げる平和条約交渉（安倍首相任期は2021年）
- ▶ 安倍政権は当時の関係者の孫（鳩山一郎首相交渉時の岸幹事長、河野に連なる）
- ▶ 朝鮮半島の転換点とも重なる（1956年8月宗派事件と10月鳩山訪ソ、宣言）
- ▶ NHKのリークした1955年6月、ソ連幹部会交渉方針で「2島引き渡し」を指示
- ▶ 英国での8月「2島」をマリク大使が示す
- ▶ 松本俊一全権の個人書簡、TBS資料公開、（特に宣言翌日の布陣宛書簡）
- ▶ 3つの問題、「（外務省の）欲」、「内輪もめ」、「ダレスの恫喝」
- ▶ 自由民主党の結党（55年11月）決議で動きが取れず、
- ▶ 北方領土=4島という新しい言葉は、56年3月下田局長の造語

# 逆からみる日本と極東(太平洋)ロシア



# 2018年9月日ロ首脳会談の謎

- ▶ ウクライナ、北方領土以外の領土問題を解決したプーチン
- ▶ 2016年長門会談前に「国境問題」を「国際法的に解決する」と大統領外交概念で規定
- ▶ 安倍総理は5月北極海からカムチャトカ半島を経て、日本海を
- ▶ 経済交流の海へ転嫁する構想
- ▶ カムチャトカ半島に日露のLNG積出港
- ▶ 9月、ヤマルネネツでのLNG北極2構想の背景



# ロシア国内の反対運動



- ▶現状では、サハリンの一部、モスクワのシステム外反対派（数百人）、左派戦線に限定（左の写真では「北海道はロシアの島」とある）
- ▶ただ昨年夏から年金問題でプーチン大統領の人気低下、欧米同様に「反エリート」運動の兆し
- ▶「愛国」勢力のポピュリズム伝播を気にする
- ▶プーチン系は戦勝70周年で「不滅の連隊」運動

# 終わりに

- ▶ 安倍対口外交のホップ・ステップ・そしてジャンプ
- ▶ ホップとしての長門会談での共同経済活動（特別な制度）
- ▶ ステップとしてのシンガポール首脳会談（「56年共同宣言を基礎に」、国境画定）東西関係がネック
- ▶ そしてジャンプ（平和条約締結）はいつか